

子弟教育への熱い思い

大^{たい}典^{てん}記念文庫

子どもたちの夢や希望をはぐくんできた学校図書館。その草分け的存在である大典記念文庫を紹介します。

明治十八年（一八八五年）に開校し、区内でも屈指の歴史を誇った旧豊水小学校（南八西二）。その校舎西側の鴨々川沿いに、れんが造り二階建ての「大典記念文庫」があります。同文庫は、大正五年から六年にかけて図書館として建造され、大正天皇の即位にちなんで「大典」と名付けられました。

当時の代表的な図書館としては、札幌農学校（現在の北海道大学）や北海道教育会の附属図書館などがありました。大型の図書館を造るより、簡易な図書館を小学校に設置した方が良いという考え方が行政側にあり、これに共鳴した豊水小学校の保護者会が、七千円の費用をかけて建造しました。当時の地域の人々の子弟教育への熱意がうかがえます。

建物の内部は一階が資料室、二階が和室となつて

おり、資料室には、図画やつづり方の作品のほか少年野球大会の優勝カップなどが保存され、当時の学校や子どもたちの様子を伝えています。隣には、木造平屋建ての閲覧室があります。また、建物の前面は、「豊水の庭」と名付けられた庭園となっており、コイが泳ぐ池やあずまやが施され、建物のれんが色と調和して落ち着いた雰囲気醸し出しています。

（平成十年十月号・第五十回）



旧豊水小学校西側の大典記念文庫